書き抜き読書ノート 2532　　2023 年 12 月 27 日

ディケンズ著 村岡花子訳「クリスマス・カロル A Christmas Carol」新潮文庫、新潮社 1952 年 11 月 5 日刊を読む

ケチで冷酷で人間嫌いのがりがり亡者スクルージ老人は、クリスマス・イブの夜、相棒だった老マーレイの亡霊と対面し、翌日からは彼の予言どおりに第一、第二、第三の幽霊に伴われて知人の家を訪問する。炉辺でクリスマスを祝う、貧しいけれど心暖かい人々や、自分の将来の姿を見せられて、さすがのスクルージも心を入れかえた…。文豪が贈る愛と感動のクリスマス・プレゼント。

１．（１）**スクルージは口に出したより以上のことを実行**した。
（２）**彼は自分の言ったことは全部、それよりもっともっと多くのことをした。**
（３）そして**実際は死んでいなかったティムには第二の父となった。**

２．（１）彼は**この善い、古い都にも、または他のいなかる善い、古い都にも、町にも村にも、この善い古い世界にもかつてなかったくらいの善い友となり、善い主人となり、善い人間となった。**
（２）**人によっては彼が別人のようになったのを見て笑ったが、彼はそういう人たちを笑うがままにしておき、少しも気にかけなかった。**
（３）彼はこの世では何事でも善い事なら必ず最初にだれかしらに笑われるものだということをちゃんと知っていたし、またそういう人々は盲目（もうもく）だということを知っていたので、おかしそうに眼元（めもと）にしわをよせて笑えば盲目という病気がいくぶんなりと目立たなくなるだけ結構だと考えていたからである。
（４）彼自身の心は晴れやかに笑っていた。それで彼にはじゅうぶんだった。

３．（１）それ以来、幽霊（ゆうれい）との交渉（こうしょう）はなかったが、彼はその後は絶対禁酒主義を奉（ほう）じて暮（くら）していった。
（２）そしてもし生きている人間でクリスマスの祝い方を知っている者があるとすれば、彼こそその人だといつも言われていた。
（３）私たちについても同じことが言われますように、私たちのすべての者がそうなりますように。
（４）それからティム坊（ぼう）が言った通り、「神よ、私たちをおめぐみください、みんな一人一人を！」

［コメント］
イギリスの作家チャールズ・ディケンズの名作「クリスマス・キャロル」。年に 1 回、クリスマスの前後にお読みになることをおすすめします。読めば読むほど心が洗われる素晴らしい作品では。引用の文章は、作品の最後の部分です。

2023 年 12 月 24 日林明夫